



鳥取県のマスコットキャラクター「トリビー」

全国学力・学習状況調査問題からの 先生方へのメッセージを受け取ろう

【どんな問題?】

- 学習指導要領の理念・目標・内容等に基づく、「**今、求められる学力**」を問題として出題。
- 教員による指導方法の改善や児童の学習改善・学習意欲の向上等に役立terるという視点から、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題を出題。
- 過去の問題で見られた課題を踏まえた問題も出題。

【どんなメリットがある?】

- 全国学調を分析することにより、どのような授業を行えばよいかという「**今、求められる学力**」の方向性を知り、授業改善につなげられる。
- 各設問の正答率や誤答の状況から課題の有無を把握し、学校における個々の児童への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てることができる。
- 質問紙調査では、学校としての取組や生徒の学習状況を客観的に数値として把握でき、それを学校運営や授業改善等に生かせる。

「今、求められる学力」を知り、ねらいを明確に意識した授業設計をしましょう!

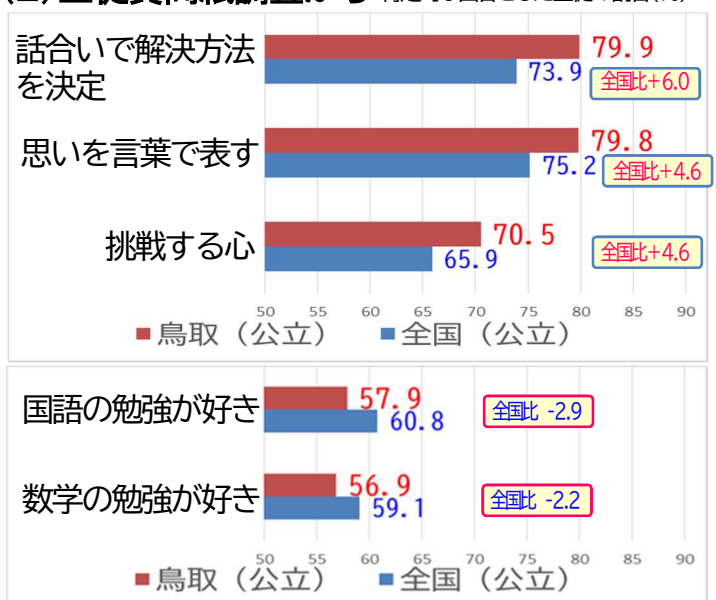
令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果(中学校3年生)

(1) 教科と選択式・短答式・記述式の学力状況

公立学校平均正答率 (%) (H28~H30 A:主として「知識」に関する問題 B:主として「活用」に関する問題)の平均正答率

	国語				数学			
	本県(公立)		全国(公立)		本県(公立)		全国(公立)	
R3	63		64.6		56		57.2	
H31	73		72.8		60		59.8	
	国語A		国語B		数学A		数学B	
H30	76	76.1	60	61.2	66	66.1	45	46.9
H29	77	77.4	72	72.2	63	64.6	48	48.1
H28	76.7	75.6	67.1	66.5	63.2	62.2	44.4	44.1

(2) 生徒質問紙調査から 肯定的な回答をした生徒の割合(%)



鳥取県の状況は?

教科の平均正答率は全国を**下回る**。特に、**記述式の問題**で全国の平均正答率を下回り、**無解答率が全国と比べて高い**傾向がある。

質問紙では、「**国語・数学の勉強が好き**」の項目で全国の平均と比べ**下回る**。



学力の向上を図るには、今回の調査で明らかになった生徒の意識の高さを学習への意欲につなげ、「**学ぶことが楽しい**」「**勉強が好き**」と思えるような授業へと変えていくことが必要です。

全国学力・学習状況調査の問題と県立高校入試の問題を見てみましょう

全国学力・学習状況調査の問題と高校入試や大学入試で同様の問題が出題されています

「全国学力・学習状況調査」の分析例

与えられた条件に従い、俳句に用いる言葉を複数の候補の中から選び、その言葉を選んだ理由を書く。

条件1 選んだ「言葉の候補」について、「辞典の記述」の中でのような意味に着目したのかを、ほかの「言葉の候補」の意味との違いが分かるように書くこと。

条件2 選んだ「言葉の候補」を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを、条件1で取り上げた意味をもとに具体的に書くこと。

【辞典の記述】

ほろほろ ①涙や葉・花びらといった小さく軽いものが、音もなく落ちてこぼれ落ちる様子。②山鳥・雉・鳩といった鳥の鳴く声。

ぼろぼろ ①大粒の涙をこぼす様子。かたまりや粒などが、続けてこぼれ落ちたり崩れたりする様子。②物がひどく破れたり崩れたりしている様子。

ぼろぼろ ①涙や小さい粒状のものなどが、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子。②ひとかたまりになっていたものが水分を失って、ばらばらになる様子。

【創作している俳句】

卒業に こぼれる涙 [] と

【言葉の候補】

A ほろほろ
B ぼろぼろ
C ぼろぼろ

③ 川口さんは、「卒業」をテーマに俳句を創作しています。次は、川口さんが「創作している俳句」とその俳句の [] に入れる「言葉の候補」、川口さんが見ている「辞典の記述」です。あなたなら、「言葉の候補」の中のどの言葉を選びますか。AからCまでのの中から一つ選び、「言葉の候補」の中のどの言葉を選んでもかまいません。それを選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

(令和二年度全国学力・学習状況調査問題)

この全国学調の問題は、2つの条件に従って記述する問題です。
論点について自分の立場を決め、自分の考えの中心や主張を明確にして書く指導が大切です。
高校入試では、どんな問題が出題されているのでしょうか。



県立高校入試の分析例

与えられた条件に従い、目的に応じて資料から必要な情報を読み取り、比較して、根拠を明確にして、自分の考えを書く。

【条件】

① 二段落構成とし、内容は次のとおりとする。

- 第一段落には、資料から課題を読み取って書くこと。
- 第二段落には、第一段落で挙げた課題についての解決策を考えて書くこと。

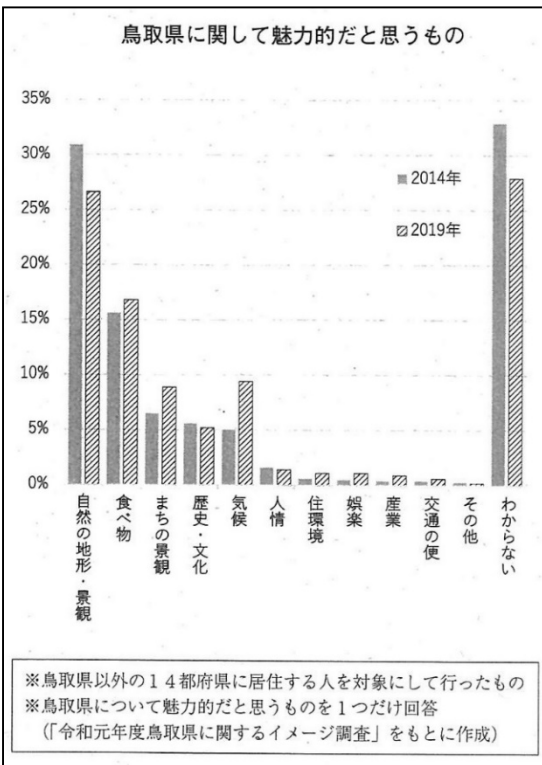
② 自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)を踏まえて書くこと。

③ 解答欄の八行以上、十行以内でまとめること。

④ 原稿用紙の正しい使い方に従うこと。

⑤ 数値を使う場合は、次の例に示した書き方で書くこと。

例 [] 二〇一四年 または [] 二五%



【問題五】問五 このパネルディスプレイのあと、次の資料(県外居住者を対象にして行った鳥取県に関するイメージ調査)をもとに、「鳥取県の魅力」について考え、その課題と解決策を文章にまとめることになりました。あとの【条件】に従ってあなたの考えを書きなさい。

(令和三年度鳥取県立高校入試問題)

この高校入試の問題は、5つの条件に従って記述する問題です。
複数の情報を読み取り、整理・活用して、説得力のある文章を書く指導が大切です。
全国学調と高校入試の問題、似ていますね！



11月15日に作成しました
校内研修用の「研修パッケージ」
をぜひご活用ください！

どちらの問題も求められる力は同じで、精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現し、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合う力が求められます。この力は、**国語・数学だけでなく、全教科で育てていく力**です。



国語

力が付いている問題	県	全国	差
◆話し合いの話題や方向を捉える ① (一) 話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する問題	正答率 90.0%	89.7%	+0.3 ↑
◆文脈に即して漢字を正しく読む ④ (一) ②漢字を読む問題 (詳細)	正答率 89.1%	88.8%	+0.3 ↑
課題が見られた問題	県	全国	差
◆文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ ③ (四) 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く問題	正答率 16.0% 無回答率 27.2%	20.5% 24.1%	-4.5 ↓ +3.1 ↓
◆書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く ② (一) 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する問題	正答率 23.8%	24.8%	-1.0 ↓

- * 正答率では、全14問中11問が全国平均を下回り、そのうち9問が1ポイント以上の差でした。
- * 記述式問題の無回答率は、4問中3問が全国を1ポイント以上の差で上回りました。
- * 国語に関する質問事項への肯定的回答率では、9問中7問が全国平均を下回りました。



国語に関する生徒質問紙の結果に注目してみましょう	県	全国	差
○国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしている	63.2%	61.3%	+1.9 ↑
△国語の勉強は好きだ	57.9%	60.8%	-2.9 ↓
△国語の授業の内容はよく分かる	77.4%	80.1%	-2.7 ↓
△今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した	71.4%	73.7%	-2.3 ↓

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に取り組みましょう

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ

- ◆文章の内容を捉えた上で、自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にすることに課題が見られました。



<ポイント> 文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要があります。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切です。
→令和3年度全国学力・学習状況調査報告書 (中学校国語) P40

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く

- ◆推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題が見られました。



<ポイント> 目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する必要があります。その際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切です。
→令和3年度全国学力・学習状況調査報告書 (中学校国語) P29

日々の「書く」における実践例

詳しくは、県教育委員会作成「研修パッケージ」をご覧ください。

「書くこと」のみならず、「話すこと・聞くこと」「読むこと」や〔知識及び技能〕の学習過程においても、「書く」活動の機会が多く見られます。個別の知識・技能を活用する力、必要な情報を自ら取り出す力、まとめたり自分の考えを表現したりする力等を総合的に育成するために、**制限**や**条件**を設けて書く機会を増やしましょう。

- ①時間制限 例、3分以内
- ②字数制限 例、80字以上100字以内
- ③内容・構成等 例、結論を先に述べる
叙述を2つ以上取り出す



- ・自由に書かせるのではなく制限や条件を設ける。
- ・経験を多く積ませ、絶対的な「書く量」を確保する。(まとめ・振り返り等でも)

<具体的な授業改善例について> *以下の資料を参考にしてください。※学校教育支援サイトにもデータを掲載しています。

①全国学力・学習状況調査報告書 ②授業アイデア例 (国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/jugyouirei/r03/index.htm>)





数学

力が付いている問題	県	全国	差
◆整式の加法と減法の計算ができる	正答率		
2 数量の関係を一元一次方程式で表す問題	72.7%	71.3%	+1.4 ↑
◆与えられたデータから中央値を求めることができる	正答率		
5 反復横とびの記録の中央値を求める問題	89.8%	84.5%	+5.3 ↑
課題が見られた問題	県	全国	差
◆目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	正答率		
6 (2) 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成させる問題	55.5%	61.8%	-6.3 ↓
	無回答率		
	19.3%	15.4%	+3.9 ↓
◆数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	正答率		
6 (3) 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する問題	26.4%	30.3%	-3.9 ↓
	無回答率		
	34.7%	29.9%	+4.8 ↓

- * 「数学的な技能」を問う問題の平均正答率は3問すべてで全国平均を上回りました。
- * 前回の調査結果と同じく、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を数学的に説明する力に課題が見られました。
- * 「説明」をする問題の平均正答率は、5問中4問が全国平均を下回っていました。
- * 無回答率が全国よりも高い問題が16問中14問ありました。
- * 「数学が好き」「数学がよく分かる」と回答した生徒の割合が平成31年度の結果に比べて向上しました。



数学に関する生徒質問紙の結果に注目してみましょう	県	全国	差
○数学で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	76.2%	74.6%	+1.6 ↑
○数学の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考える	77.4%	75.8%	+1.6 ↑
△数学の勉強は好き	56.9%	59.1%	-2.2 ↓
△数学の授業の内容はよく分かる	73.9%	74.6%	-0.7 ↓

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に取り組みましょう

◆観点別に見ると、技能の問題は、すべて全国平均以上でした。
⇒基本的な技能の定着は良好な状況。



<ポイント> 補充的な学習の場面を設定したり、個に応じた支援を意識したりして授業を進めている成果と考えられます。学習指導要領では、「生きて働く知識・技能の習得」が求められていますので、日常の事象や既習事項を発展的に考えるときに、その解決方法として使える知識や技能を身に付けさせていくようにしましょう。
→令和3年度全国学力・学習状況調査報告書（中学校数学）P21, 24, 35

◆説明する問題に課題がありました。
⇒1 「事柄や事実」を説明する
2 「方法や手順」を説明する
3 「理由」を説明する
という「何を説明するのか」を意識した教師の単元計画や発問の工夫が求められる。



<ポイント> 単元の「どこで」「何を」説明させるのかについて見通しのある計画を立て、生徒全員が説明する機会を授業の中に位置付けることが大切です。
生徒に説明を求めるときには、「何を」説明するのかを伝え、その際に必要な要素をおさえて説明するよう指導しましょう。
1 「事柄や事実」を説明する → 「前提」と「結論」
2 「方法や手順」を説明する → 「用いるもの」と「用い方」
3 「理由」 → 「根拠」と「成り立つ事柄」
→令和3年度【中学校】授業アイデア例P9～10

詳しくは、県教育委員会作成「研修パッケージ」もご覧ください。

全国学力・学習状況調査の問題は、学習指導要領の趣旨や内容が問題の形で示されています。日々の授業が、示された問題を解決する力の育成につながっているか考えながら、学習指導要領に示された「算数・数学の問題発見・解決の過程（算数・数学の学習過程のイメージ）」を意識した授業づくりを進めましょう。



<具体的な授業改善例について> *以下の資料を参考にしてください。※学校教育支援サイトにもデータを掲載しています。

①全国学力・学習状況調査報告書 ②授業アイデア例（国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/jugyourei/r03/index.htm>

